

令和四年度

## 家族で古文書にチャレンジ

古文書という言葉聞いて、みなさんは、どんなことを思い浮かべますか。(字がくねくねしていて読みづらい)(意味が分からない)など、マイナスのイメージがあるのではないでしょうか。でも、昔の人が書いたものを読めるようになる、新たな発見があつて、歴史の学習が楽しくなります。

昨年度からホームページにテキストを載せて、いつでも気軽に利用できるように、学びの場を提供しています。

本年度も内容を変えて、ご自宅にくずし字の辞典がなくても、家族で読んでいけるように工夫しました。是非チャレンジしてみてください。

次の史料は、江戸時代の会津藩（今の福島県）で使われていた「什の掟」という定めです。什（じゅう）は六歳から九歳までの遊び仲間のことを言い、藩校の「日新館」に入學する前の心構えが説かれました。小学校六年生の社会科の教科書で紹介されています。

一、年長者の言ふことは  
背いてはふりませぬ  
二、年長者には御辞儀を  
しなけれはふりませぬ  
三、虚言法いふ事は  
なりませぬ  
四、卑怯な振舞を  
なりませぬ  
五、弱い者をいぢらんと  
なりませぬ  
六、戸外で物も食つても  
ふりませぬ  
七、戸外で婦人と言葉交  
交ははふりませぬ  
ならぬ、病はひらぬ  
女のと次

いっしょに読んでいく上で、気を付けておくとよい点を話します。

○歴史的かなづかいに慣れましょう。

昭和二十一年（一九四六）に現代仮名づかいが公布されてから、日常で歴史的仮名づかいを使うことがなくなりました。

例えば、昔は「言う」を「言ふ」、「交える」を「交へる」と書きましたが、今はこのような表し方をしていません。また打ち消しの助動詞「ぬ」を使うことも少なく、大抵は「ない」を付けて、否定の表現をしています。

○難しい言葉とその意味を理解しておきましょう。

年長者（ねんちようしゃ）・・・年齢が上である者。

背く（そむく）・・・命令や意向に反する。

御辞儀（おじぎ）・・・頭を下げて挨拶をすること。

虚言（きよげん）・・・うそ。いつわり。

卑怯（ひきょう）・・・正々堂々としていないこと。

正面から事に立ち向かう潔さがないこと。

振舞（ふるまい）・・・動作。行動。

いちめ（いじめ）・・・自分より弱い立場にある者を肉体的・精神的に苦しめること。

- 一 年長者の言ふこと
- 背いては りませ
- 二 年長者には御辞儀を  
し けれ りませ
- 三 虚言 いふ は  
なりませ
- 四 卑怯な振舞をして   
りませ
- 五 弱い者を ち    
なりませ
- 六 戸外で物 食へ    
りませ
- 七 戸外で婦人と言葉   
交へては りませ   
ならぬこ は ら   
ものて

難しいと感じたところは、ありませんでしたか。

おそらく、平仮名でない文字があり、どのように読むとよいか困ったのではないでしょうか。

「あ・い・う・え・お」のような平仮名は明治三十三年（一九〇〇）の小学校令施行規則で定められたものです。それ以前は、平仮名以外の仮名文字がたくさんありました。このような仮名文字を変体仮名（へんたいがな）と呼んでいます。「仕の掟」に使われている変体仮名を、次のページで示しました。

「什の掟」にある変体仮名は次のように読みます。(その①)

ㇿ	ㇼ	ㇹ	ㇸ	ㇶ	ㇵ	ㇴ	ㇳ	ㇲ	変体仮名
尔	那	奈	奈	登	天	亭	須	以	元の漢字
ニ	ナ	ナ	ナ	ト	テン	テイ	ス	イ	音訓
←	←	←	←	←	←	←	←	←	
に	な	な	な	と	て	て	す	い	読み方

「什の掟」にある変体仮名は次のように読みます。(その②)

子	哉	を	茂	免	わ	を	怒	変体仮名
乎	越	遠	茂	免	盤	者	怒	元の漢字
ヲ	ヲ ツ	ヲ ン	モ	メ ン	ハ ン	は	ヌ	音訓
←	←	←	←	←	←	←	←	
を	を	を	も	め	は	は	ぬ	読み方

「什の掟」のページに戻って、読み直してみましよう。  
正しい読み方は次のページに紹介します。

- 一 年長者の言ふことに背いてはなりません
- 二 年長者には御辞儀をしなけれはなりません
- 三 虚言をいふてはなりません
- 四 卑怯な振舞をしてはなりません
- 五 弱い者をいちめてはなりません
- 六 戸外で物を食へてはなりません
- 七 戸外で婦人と言葉を交へてはなりません  
ならぬことはならぬ  
ものです



それでは、変体仮名が多く使われている「小倉百人一首」  
を読んでみましょう。当館所属の「今様小倉百人一首」  
(明治三十六年発行) から二首の和歌を選びました。一首  
目は、小野篁の和歌です。



### 言葉の意味

- 参議管 (さんぎたかむら) 平安時代の貴族小野篁のこと。
- 参議 (さんぎ) 太政官 (だじょうかん) における官職の一つ。
- わたの原 大海原。
- 八十島 (やそしま) とても多い島。
- こく 漕ぐ。艫 (ろ) や櫂 (かい) などで水をかいて、舟などを進める。
- あま 漢字で「海人」。漁師のこと。



# 参議 篁

の原 八十島  
けよ あまつり舟 こき出ぬと

のところに、次のような変体仮名が記されています。これを参考にして、小野篁の和歌を読んでみましょう。

乃	徒	ハ	起	き	ろ	田	和	変体仮名
乃	徒	ハ	起	遣	可	田	和	元の漢字
ノ	ツ	ハ ツ	キ	ケ ン	カ	た	ワ	音訓
←	←	←	←	←	←	←	←	
の	つ	は	き	け	か	た	わ	読み方

小野篁の和歌は、次のようになります。

参議 篁

わたの原 八十島かけて こき出ぬと  
人にはつけよ あまのつり舟

和歌の意味

あの人は、大海原に広がる島々をめぐって漕ぎ出していったと、都にいる人に告げてほしい。漁師の釣り舟よ。

二首目は、陽成院の和歌です



### 言葉の意味

- 陽成院（ようぜいいん） 第五十七代の天皇。退位して上皇陽成院となった。
- 筑波嶺（つくばね） 筑波山のこと。歌枕（和歌に必要な枕詞）として用いられた。
- 峯（みね） 山のひとときわ高くなった所。頂上。
- 男女川（みなのがわ） 筑波山に発し、南流して桜川に合する川。
- 淵（ふち） 水の深い所。なかなか抜け出すことのできない苦境。
- ぞ 「係結び」の一つ。一つの物事を特に取り出して、強調する時に用いられる。文末の活用語は連体形となる。

## 陽成院

くばの 峯よりおつる   川

恋ぞつもり 淵となり

のところ、変体仮名が記されています。前に示したもので、次のページに紹介したものを参考にして、陽成院の和歌を読んでみましょう。

陽成院の和歌は、次のページに示しました。声を出して、繰り返して読んでみましょう。

ふ	ぬ	も	み	る	お	ね	変体仮名
累	怒	毛	見	留	於	祢	元の漢字
ル イ	ヌ	モ ウ	み る	ル	オ	ネ	音訓
←	←	←	←	←	←	←	
る	ぬ	も	み	る	お	ね	読み方

陽成院の和歌は、次のようになります。

## 陽成院

つくばねの 峯よりおつる みなもの川  
恋ぞつもりて 淵となりぬる

和歌の意味

筑波山の峰から流れ落ちる男女川（みなのがわ）の細い流れが、次第に水量が増して深い淵となってしまいうように、私の恋心も思いが積もって、深くなっていくよ。  
（陽成院が恋する女性のことを強く思い、男女川にかけて詠んだものになっています。）

## おわりに

いかがでしたか。昨年は返読文字、今年に変体仮名に注目して、古文書に親しんでいたいただきました。これがシリーズとなるように、今後もやり方を工夫していきたいと思えます。楽しみにしてください。